



Title	マーシャル博士の近業「産業及貿易論」に対するピグー教授の批評
Author(s)	馬場, 誠
Citation	商業と経済, 1(1), pp.385-389; 1921
Issue Date	1921-04-25
URL	http://hdl.handle.net/10069/26772
Right	

This document is downloaded at: 2019-06-16T08:57:42Z

新著紹介

マーシャル博士の近業「産業及貿易論」 に對するピグー教授の批評

馬 場 誠

マーシャル博士の永く世に豫期せられ居りたりし著書の出現は、我等經濟學研究者にとりて甚だ重要な事件なり。惟ふに本書の包含する廣大なる研鑽の範圍に互りて、其系統的並に理解的評論を敢てすることは、彼の題材を全然支配せる著者の如き他に比類なき能力を以てするに非ずんば如何でか可能なるべき。多數諸國の歴史的比較研究、數多産業の技術に關する詳細の説明並に巧妙なる實體的分解は總て秩序ある組織に結合せられたり。而て此書の適當なる評價に關しては我等は須く更に著者に等しき才幹を有する一經濟學者の到來を待たざる可からず。茲に僅になし得る所のものは此豊富なる知識の鑛山に關する粗雜なる棚卸に過ぎざるなり。

本書は三卷より成る、第一卷は簡單明瞭に「貿易及び産業間の一般的關係」を説明し、後英、佛、獨及合衆國の産業的特徴に關し歴史的に叙述せり。而て其主眼とする所は次の章句にあり。「凡そ國家の産業及び貿易は相互に作用し或は反作用す。然れども二者の中重要なものは産業の勢力なり。而て主なる貿易徑路は周圍の産業間に於ける關係によりて支配せらる。これ水路が山岳の外圍關係によりて以て支配せらるゝに等しかるべし……然れども又水路は山岳に反作用し貿易は産業に反作用す、故に若し各國の外國貿易に對する便宜にして異なりしならむにはその産業史も爲に相違を生じたるなるべし」(同書七頁)之に續ける諸章(及附録BよりGに至るまで)に於てマーシャル博士は歐米の産業運動の裏面に横はれる特殊の原因を廣き範圍に互りて探究し、又之を配列したり。その經濟史に貢獻する所甚大なり。

第二卷は「營業組織の主要なる傾向」と題す。そは第一卷に於て其發達の全體を説明したる所の大量生産の方法及代表的營業の大規模に關する現在の形態及び將來に於て發生すべき傾向につきて論じたり。紹介的一章の後第二章は工業技術が系統的記録及び標準比に負ふ所の大なるを説明せり。『習慣は工程及製品を無意識的並に粗雜的に標準化す。工業技術に關する近世科學は或種の製品及び多數の工程を考慮的に標準化し又他方多數の製品及或種の工程をば種々の趣味及氣分に對して變動をなす所の欲望に對して且又、流行に對して放任しつゝあり……標準は個人的生産者に對しては特殊のなるべく又産業の大部分或は又全半球に對しては一般的なるべし』(二〇一頁)之等の兩意義に於ける標準化は、よく運轉せらるゝ機械器具はそれに比較

してより正確なる新機械工場の親となり而て斯く累積的に進行すとの「建築的大原則」により助長せられたり。之等事項を多くの興味ある事實を説明したる後マーシャル博士は次の二章に進み代表的營業單位特に鋼鐵及び織物工業のサイズに影響を及す所の主要なる原因の若干を述べたり。鋼鐵工業に就きて謂ひひらく「高級階段及低級階段がこの工業の如くに相互甚だ確實に而も頗る大規模に作用する所の産業を他に見ざるなり。故に又大なる側面的發展並に合成あると同時に大なる垂直的發展並に合成を伴ふ所の他の産業部類なし。彼の鐵鑛及炭坑にして「最低」階段にあるものは高級階段より來る所のレール及び機械の大使用者なり。鎔鑛爐は最低階級に於て鑛山より受け而して彼等の製品を重的工場に送る。而てそも亦高級機械の使用者たるなり。産業し他の種類に於てこれに類似せるも存せず」(二一九頁)次で標準化が大規模營業及小規模營業間に於ける競争及び在庫品調製の慣行に及ぼす結果を論じたり。又物・自轉車製造・衣服製造並に建築業に實例を求めて「標準化的製品に對して半自動的作用を増加的に與へつゝある所の大營業は屢々間接に規則は單に第二位に過ぎざる所の營業を輔佐しつゝあるなり。而て或方面に於てはその新らしき機會を進め、それあるによりて小資本を有するに過ぎざれ共而も大精力ある人は成功して產業界の領袖たり得ざるにあらず」と述べ(二四六頁)之を要するに「本章及び前二章に述べたる觀察は一個の結論を示すものゝ如し。即第一は廣き範圍に於ける將來の技術的進歩は層一層大規模に資本の助力を必要とするものゝ如くなること、第二は彼の資力が貧弱なる間は工業の狹隘なる分野に精力を傾注して満足する決心ある人士に對して小資

本を以てなさるべき營業尙多數に存在すること之なり」(二四二頁)

次の三章(五、六及七)は投機及び販賣を論ず。投機に三種類あること及投機の利害を詳にし販賣に關する諸事に於ては廣告に關して述べたり。

第二卷の殘餘の五章は四の項目の下に營業組織を研究せり。曰く株式會社の發達及影響、曰く營業組織の財政的基礎、曰く能力の任務及必要、曰く科學的方法の應用之なり。更に詳言すれば獨及米に於ける産業並に貿易に對する銀行の關係を比較し、ブリテイッシュ・トレード・コーポレーションに就て所見を述べ尙ほ作業的能力の教育及科學的經營法等につきて周到に記述したり。

第三卷は名づけて「獨占的傾向特に獨占の一般公衆福祉に對する關係」と云ふ。その最初の二章は獨占到關係ある價格の一般問題を論じたり。然れども「獨占及自由競争は理論的には明確に異れども然しながら實際に於てこの兩者は相互に其區別を認識し得ざるなり。殆ど總ての競争的營業には獨占の要素あり……」

第三章より第五章に至るまでは「運輸に於ける競争及獨占」と題し道路水路及鐵道による運輸は總てこれを研究せり。特に旅客に對する 'helicopter' 回旋式飛行機の可能的出現に就きて論及せり。そは垂直的運動によりて一小庭園より上り又下ることを得るものなり。次に海運割引及鐵道差別運賃に關する詳細なる議論あり、終りに鐵道國有に關して述べ。

運輸より米獨に於けるトラスト及カルテル並に「大英の産業及び貿易に於けるアグレゲーション

ヨン・フェデレーション・コーペレーションに移れり……

是等の外國の經驗を英國に適用せんとするに當りてマーシャル博士は「構成的共同」に就きて注意を集中したり。こは大に使用せらるゝ機械の特定構成部分の大分量に關する生産に就きて小規模の商店をして分業せしむる所の標準化に關する協約によりて「(五九二頁)「産業に科學を應用することに關する共同的行動により」(六〇八頁)而て「彼等の代理店によりて物品を直接に販賣せむことを始むる生産者の共同によりて例示せられたり。産業の特定部分の利益と社會全體の福利との間の内部關係に關する是等の議論終りて最終章に至れり「産業に於ける排他的階級利益の減退」と題し「産業の上部階級が下部階級以上に常に有する半獨占的利益」につきて評論せり。

以上を以て吾人の棚卸を終了せざる可からず。余は出來得可き丈著書の固有の語を使用することによりて大體の構造性質及び目的を示すことを以て満足せり。序文に於て吾人は姉妹篇を約束せられたり。そは貨幣及信用國際貿易社會的努力に關するものなり。

追記

福田博士の「經濟學考證」中に曰く「現存世界經濟學者中の第一人者たる英國のマーシャル先生先年ケンブリッヅ大學教授の任を門弟ヒカー氏に譲りて退隱し爾來著述の完成に全力を傾注しつゝあり。我等後學は頭を伸べて其の公刊を待ちつゝあり。爾來數年未だ何の聞く所無しと雖も遠からず吾人の渴望を醫するに足る雄篇の出で來るべきは疑なし」(同書四一頁)一昨年六月マーシャル博士は「産業及貿易論」を公にしたり。而して同年十二月のエコノミック・ジャーナルはヒカー教授の批評を特に其論說欄中に載せたり。吾人は曾て同書を一讀しその極めて得る所大なるを感じ、以上ヒカー教授の言を借りて同書の大要を紹介せるなり。